

## 桐山襲書誌・増補

A Revised and Enlarged Edition of “The Bibliography of Kiriyama Kasane”

---

### 二 瓶 浩 明

NIHEI Hiroaki

This is a revised and enlarge edition of “The Bibliography of Kiriyama Kasane”. He is a novelist, one of the zenkyoto generation. His most popular work is “A Legend of Partisans”. He was died in 1992 , then I tried to make his work list, and named it “For Kiriyama Kasane and Japanese Modern Literature: The Bibliography of Kiriyama Kasane”. Now I am glad to finish my duty.

私は、およそ十年ほどしか創作活動をすることができなかった現代作家・桐山襲の著作と参考文献目録とを編纂した『桐山襲と日本現代文学のために 書誌・1982-1992』（1992年7月22日発行）という私家版（B5版、総53頁、簡易無線綴じ）を刊行したことがある。本稿はその増補改訂版である。

かつてその構成を、第Ⅰ部単行本・文庫本など、第Ⅱ部著作年表（初出目録）、第Ⅲ部参考文献目録としたが、ここでは構成を改め、増補改訂する目的にかなうべく、1著作、2著作を収録した単行本、3参考文献目録というスタイルをとった。

その記載法については、特別に凡例を示す必要もなく、見れば判然とするように編成した。参考文献目録については、先の書誌において未確認としているものや、新たに単行本に収録されたものなどを、あらためてここに記載する方針を採用した。またその文献は、先の書誌では著作・単行本別に目録化していたが、桐山が亡くなって四半世紀近く（！）時が経過していることもあり、種別に分類することをせず、発表順に配列することとした。

基本的には先の書誌同様に、桐山の文学テキストを理解するためのものを参考文献としたが、「パルチザン伝説」刊行をめぐる言説や永山則夫文芸家協会入会問題などについて触れたものも、看過し得ないものはここに加えている。

上記のことを取り上げた、多くは無署名の週刊誌記事や報道、新聞や雑誌の記事等については、それでもって日本現代文学やマスコミ等の歴史や物語を構成できるほどに、資料・文献を収集し得ているし、それを記述する意思がない訳ではないが、今回はこれを控えた。どうにも一向に何も変

わらないマスコミや出版界、文学界、この国の体質に閉口して、まったくもって気が乗らないのだ。これはそんな機会が訪れ、理由のある依頼が来れば、再考したいと思う。

ついでながら、いまだ論文化してはいないのだが、私が桐山について研究発表したものとして、以下のものがあるので、ここに記録しておきたい。

「記憶のしかた / 非在の〈革命〉 —— 桐山襲について ——」

東海近代文学会 第 104 回例会 1999 年 9 月 4 日

於 名古屋市・愛知県中小企業センター

発表要旨：「東海近代文学会会報」第 25 号 2000 年 3 月 31 日発行 P6 - 7

## 1 著作

<単行本>

○『未葬の時』

1996 年 6 月 10 日 第 1 刷印刷

1996 年 6 月 15 日 第 1 刷発行

著者 桐谷 襲

造本者 菊地信義

発行所 作品社

定価 1800 円 (本体 1748 円)

総頁 108 頁

中扉 1 頁

本文 2 - 105 頁

初出 106 頁

奥付 107 頁

<文庫本>

○講談社文芸文庫『未葬の時』

一九九九年一月一〇日 第一刷発行

著者 桐谷 襲

発行所 講談社

定価 1300 円 (税別)

総頁 304 頁

扉 1 頁

目次 3 頁

中扉 5 頁

「未葬の時」	7 - 40 頁
「風のクロニクル」	41 - 201 頁
「スターバト・マーテル」	203 - 271 頁
解説 桐山襲伝説 (川村湊)	272 - 286 頁
年譜 (古谷雅子)	287 - 292 頁
著書目録 (古谷雅子)	293 - 294 頁
奥付	297 頁

<その他の著作>

○二つの死の間で 佐藤満夫監督『山谷——やられたらやり返せ』

「現代詩手帖」1986年4月号 第29巻第4号 P193

1986年4月1日発行 (思潮社)

\*これは本冊に(追補)として掲載したが、ここに再掲する。

○<幻境>としてのオキナワ <上>

「沖縄タイムス」1988年4月14日発行 第15面

○<幻境>としてのオキナワ <下>

「沖縄タイムス」1988年4月15日発行 第17面

○駒場公園散策

「中央公論」1990年7月号 第105年第7号 P52 - 53

1990年7月1日発行 (中央公論社)

○解説

河出文庫『四万十川——あつよしの夏』笹山久三 河出書房新社 刊、

1991年1月10日発行 P197 - 204

## 2 著作を収録した単行本

○『文学1993』

日本文芸家協会 編 講談社 刊 1993年4月20日発行

桐山襲「未葬の時」(初出「文芸」1992年夏季号) P135 - 150

菅野昭正「まえがき」(収録作品の)を付す (P1 - 11)

○『戦後短篇小説再発見9 政治と革命』

講談社文芸文庫 編 講談社 刊 2002年2月10日発行

桐山 襲「リトゥル・ペク」(初出「民涛」1989年春季号) P249 - 269  
井口時男「解説 文学は政治のすぐ隣にある」を付す (P270 - 283)

○『コレクション戦争と文学20 オキナワ 終わらぬ戦争』

集英社 刊 2012年5月10日発行

桐山 襲「聖なる夜 聖なる穴」(初出「文芸」1996年春季号) P567 - 687

高橋敏夫「解説 戦争はつづき、抗いと闘いはつづく」を付す (P688 - 704)

○『テロルの伝説 桐山襲烈伝』

陣野俊史 著 河出書房新社 刊 2016年5月30日発行

桐山 襲「プレゼンテ」(初出「文藝」1989年冬季号) P412 - 451

### 3 参考文献目録

○文芸時評

松本健一、「図書新聞」第375号、1983年11月5日発行、第3面(図書新聞)

○不具の構造・畸形の美学

松田修、「夜想」第10号、1983年12月1日発行、P38 - 48(ペヨトル工房)

→松田修『江戸異端文学ノート』青土社刊、1993年5月20日発行、P299 - 312

→『松田修著作集 第7巻』右文書院刊、2003年2月28日発行、P270 - 283

○アンケート 今年度の収穫

清水冰、「現代詩手帖」1983年12月号、第26巻第12号、

1983年12月1日発行、P51(思潮社)

○文化時評[文学] 文学と政治の間 『漂流記1972』VS『パルチザン伝説』

黒古一夫、「クライシス」1984年夏号、P154 - 155(社会評論社)

→黒古一夫書評集『戦争・辺境・文学・人間』勉誠出版、2010年3月30日発行、

P323 - 325

○今月の本『パルチザン伝説』 たたかひの義

竹田青嗣、「文芸」1984年9月号、第23巻第9号、1984年9月1日発行、P174 - 183  
(河出書房新社)

\* 10月号→9月号に訂正

→「たたかひの義——桐山襲『パルチザン伝説』を読む」、講談社学術文庫

竹田青嗣『現代批評の遠近法』講談社刊、1998年3月10日発行、P28 - 49

○反天皇制小説の運命 —— 『風流夢譚』と『パルチザン伝説』 ——

黒古一夫、「日本文学」1985年1月号、第34巻第1号、1985年1月10日発行、P41 - 50

(日本文学協会)

- <天皇制>と対決の文学 書評 桐山襲著「風のクロニクル」  
 (黒)、「社会新報」1985年2月26日発行、第2797号、第6面  
 →黒古一夫書評集『戦争・辺境・文学・人間』勉誠出版、2010年3月30日発行、  
 P325 - 326
- 二人の若手硬派作家 文化往来  
 無署名、「日本経済新聞」1985年8月13日発行、第32面
- 昭和の迷路について——兵頭正俊と桐山襲の迷宮  
 野崎六助、『亡命者帰らず』彩流社刊、1986年1月25日発行、P139 - 184
- 内部の敵——『バルチザン伝説』に関わって  
 金田太郎、「創」1986年4月号、第16巻第3号、通巻168号、1986年3月1日発行、  
 P60 - 63 (創出版)
- 新刊繙読『スターバト・マーテル』 文体を支える力  
 竹田青嗣、「海燕」1986年9月号、第5巻第9号、1986年9月1日発行、P182 - 187  
 (福武書店)  
 \*再掲  
 →竹田青嗣『世界の「壊れ」を見る 竹田青嗣コレクション3』海鳥社刊、1997年3月15日発行、  
 P131 - 143
- 安定成長期の新しい作家たち——<空虚>の中の模索——  
 黒古一夫、「教育国語」第87号、1986年12月20日発行、P45 - 60 (むぎ書房)  
 →第五章<空虚>の中の模索——安定成長期の若い作家たち——、黒古一夫『村上春樹と同時  
 代の文学』河合出版、1990年10月20日発行、  
 P129 - 166
- 文芸'87 1月<下>  
 中田浩二、「読売新聞」1987年1月28日発行夕刊、第11面
- 文芸時評  
 島弘之、「週刊読書人」第1668号、1987年2月2日発行、第3面 (週刊読書人)
- 文芸'87 4月<上>  
 中田浩二、「読売新聞」1987年4月23日発行夕刊、第5面
- 沖縄をめぐる断章 読書あんない 桐山襲著『聖なる夜 聖なる穴』  
 早見裕介、「新地平」1987年5月号、第149号、1987年5月10日発行、P115 - 117(新地平社)
- 文芸時評 性の文体と死  
 三浦雅士、「海燕」1987年6月号、第6巻第6号、1987年6月1日発行、P198 - 209  
 (福武書店)  
 →三浦雅士『死の視線』福武書店刊、1988年3月15日発行、P70 - 89
- 文学概観'86

- 竹田青嗣、『文芸年鑑 1987』新潮社刊、1987年6月30日発行、P46 - 49
- 表現にとって天皇はどうタブーか 読書あんない 桐山襲著『「パルチザン伝説」事件』  
中西昭雄、「新地平」1987年12月号、第156号、1987年12月10日発行、P130 - 131  
(新地平社)
- サンデーらいぶらりい 桐山襲『亜熱帯の涙』他  
三浦雅士、「サンデー毎日」1988年3月13日発行、第67巻第11号、通巻3676号、  
P113 - 115 (毎日新聞社)
- 書評 亜熱帯の涙 桐山襲  
<黒>、「すばる」1988年4月号、第10巻第4号、1988年4月1日発行、P283 (集英社)
- 七〇年安保と全共闘世代の中から  
柘植光彦、「国文学 解釈と教材の研究」1988年8月号、第32巻第10号、1988年8月20日発行、  
P122 - 123 (学燈社)
- 「全共闘運動」と文学  
鈴木貞美、「国文学 解釈と教材の研究」1989年3月臨時増刊号、第34巻第4号、1989年3  
月25日発行、P179 - 185 (学燈社)
- 聖化の代償——桐山襲『パルチザン伝説』論  
小林孝吉、「新日本文学」1989年春号、第44巻第4号、1989年4月1日発行、P92 - 102  
(新日本文学会)  
→小林孝吉『存在と自由——文学半世紀の経験』皓星社刊、1997年10月20日発行、  
P108 - 124
- 紛争の過去が現在を問う 書評『都市叙景断章』桐山襲著  
無署名、「読売新聞」1989年6月13日発行、第14面
- 文学概観 '88  
川村湊、『文芸年鑑 1989』新潮社刊、1989年6月30日発行、P46 - 49
- “文学的孤児”たちの行方——「論争」という磁場の消滅  
小笠原賢二、「早稲田文学」1990年4月号、第167号、1990年4月1日発行、P36 - 45  
(早稲田文学会)  
→小笠原賢二『文学的孤児たちの行方』五柳書院刊、1990年10月27日発行、P155 - 177
- 文学者追跡 永山則夫の文芸家協会入会問題  
小山鉄郎、「文学界」1990年4月号、第44巻第4号、1990年4月1日発行、P220 - 223  
(文芸春秋)  
→小山鉄郎『文学者追跡 1990年1月～1992年3月』文芸春秋 刊、1992年6月15日発行、  
P34 - 41  
→小山鉄郎『あのとき、文学があった「文学者追跡」完全版』文芸春秋 刊、2013年3月10  
日発行、P27 - 32

○文学者追跡 再び永山則夫の入会問題

小山鉄郎、「文学界」1990年8月号、第44巻第8号、1990年8月1日発行、P228 - 231  
(文芸春秋)

→小山鉄郎『文学者追跡 1990年1月～1992年3月』文芸春秋 刊、1992年6月15日発行、  
P66 - 73

→小山鉄郎『あのとき、文学があった「文学者追跡」完全版』文芸春秋 刊、2013年3月10  
日発行、P51 - 56

○現代小説の布置——「永山則夫問題」の視覚から

絳秀実、「群像」1990年8月号、第45巻第8号、1990年8月1日発行、P190 - 224 (講談社)

→絳秀実『小ブル急進主義批評宣言』四谷ラウンド刊、1999年1月8日発行、P32 - 89

○文学者追跡特別版 記者より「探偵」への報告——絳秀実「現代小説の布置」に反駁する

小山鉄郎、「文学界」1990年9月号、第44巻第9号、1990年9月1日発行、P228 - 241  
(文芸春秋)

→小山鉄郎『文学者追跡 1990年1月～1992年3月』文芸春秋 刊、1992年6月15日発行、  
P74 - 95

→小山鉄郎『あのとき、文学があった「文学者追跡」完全版』文芸春秋 刊、2013年3月10  
日発行、P57 - 71

○文芸家たちのスラップスティック——「永山則夫」をめぐる

絳秀実・井口時男、「早稲田文学」1990年9月号、第172号、1990年9月1日発行、  
P8 - 25 (早稲田文学会)

○アームチェア・ディテクティブ  
<肱掛け椅子探偵>の憂鬱

川村湊、「群像」1990年9月号、第45巻第9号、1990年9月1日発行、P168 - 178

○遺憾ではあるが……「メディアという暴力」を読んで

平岡篤頼、「早稲田文学」1991年1月号、第176号、1991年1月1日発行、P113(早稲田文学会)

○文芸時評 作者・話者・読者

渡部直己、「すばる」1991年3月号、第13巻第3号

1991・3・1 発行、P234 - 245 (集英社)

→渡部直己『<電通>文学にまみれて チャート式小説技術時評』

太田出版 刊、1992年7月5日発行、P45 - 64

○文学概観 '90

野口武彦、『文芸年鑑 1991』新潮社 刊、1991年6月30日発行、P46 - 49

○国家の原型 \* 初出未確認

小林孝吉、「風」1992年、第8号

→「国家の原型と永遠——桐山襲『亜熱帯の涙』」、小林孝吉『存在と自由

——文学半世紀の経験』皓星社 刊、1997年10月20日発行、P125 - 160

○追悼・桐山襲 誠実なる早や死

松本健一、「週刊読書人」、第 1928 号、1992 年 4 月 6 日発行、第 8 面（週刊読書人）

○根っこのところ 自由帳

桐原良光、「毎日新聞」1992 年 4 月 6 日発行、第 7 面

○切ない桐山襲さんの遺作 らんだむ批評

N、「毎日新聞」1992 年 4 月 9 日発行夕刊、第 8 面

○追悼・桐山襲 本質的な資質は詩人

道浦母都子、「図書新聞」第 2097 号、1992 年 4 月 11 日発行、第 2 面（図書新聞）

○憂愁多かり疾病身にあり 追悼・桐山襲

竹田青嗣、「文藝」1992 年夏季号、第 31 巻第 2 号、1992 年 5 月 1 日発行、P157 - 160  
(河出書房新社)

\*再掲

→竹田青嗣『世界の「壊れ」を見る 竹田青嗣コレクション 3』海鳥社 刊、1997 年 3 月 15  
日発行、P334 - 340

○文芸時評

山崎行太郎、「週刊読書人」、第 1932 号、1992 年 5 月 4 日発行、第 5 面（週刊読書人）

○文学者追跡 “覆面作家” 桐山襲の死

小山鉄郎、「文学界」1992 年 6 月号、第 46 巻第 6 号、1992 年 6 月 1 日発行、P270 - 273  
(文芸春秋)

→小山鉄郎『あのとき、文学があった「文学者追跡」完全版』文芸春秋 刊、2013 年 3 月 10  
日発行、P203 - 208

○文芸時評 美学化の病・病の美学化

絳秀実、「すばる」1992 年 6 月号、第 14 巻第 6 号 1992・6・1 発行、P234 - 244 (集英社)  
→絳秀実『文芸時評というモード 最後の / 最初の闘い』集英社 刊、1993 年 8 月 10 日発行、  
P125 - 144

○<原初の民衆>を辿る幻視の人——桐山襲を偲んで

上條晴史、「新日本文学」1992 年夏号、第 47 巻第 7 号、No.529、1992 年 7 月 1 日発行、  
P172 - 177 (新日本文学会)

○桐山襲 旅芸人 リトゥル・ペク

磯貝治良、『戦後日本文学のなかの朝鮮韓国』大和書房 刊、1992 年 7 月 5 日発行、P60 - 62

○反復と追憶 —— 村上春樹と桐山襲 ——

永野悟、「群系」第 5 号、1992 年 11 月 20 日発行、P34 - 45 (群系の会)

○生と死の文学 3 ガンと闘う 不思議な透明感と叙情

浦田憲治、「日本経済新聞」1992 年 12 月 17 日発行、第 36 面

○文芸季評



- 奥野健男、「産経新聞」1993年1月18日発行夕刊、第5面
- まえがき  
菅野昭正、日本文芸家協会『文学1993』講談社刊、1993年4月20日発行、P1 - 11
- 文芸時評  
大江健三郎、「朝日新聞」1993年5月25日発行夕刊、第5面
- 文学概観'92  
菅野昭正、『文芸年鑑 1993』新潮社刊、1993年6月30日発行、P46 - 49
- 桐山襲氏を悼む、犯罪と文学と組織と、永山則夫問題をめぐって、ある殺人犯 \*初出未確認  
青山光二、『人去り時移る』新峰社刊、1993年12月8日発行、P110 - 114、206 - 210、211 - 215、216 - 221
- 書評「未葬の時」桐山襲著  
無署名、「産経新聞」1994年7月4日発行、第10面
- 「未葬の時」自らの死見つめた桐山襲氏  
(由)、「朝日新聞」1994年7月21日発行夕刊、第9面
- 司修が読む「未葬の時」桐山襲著  
司修、「産経新聞」1994年7月25日発行、第11面
- 書評 桐山襲『未葬の時』  
吉田文憲、「文芸」1994年秋季号、第33巻第3号、1994年8月1日発行、P345 (河出書房新社)
- 94年上半期読書アンケート  
道浦母都子、「図書新聞」第2209号、1994年8月6日発行、第9面 (図書新聞)
- 書評 桐山襲『未葬の時』 作者自身が自らの早すぎる死をたま鎮めしているような遺作  
道浦母都子、「マリ・クレール 日本版」、1994年10月号、143号、第13巻第10号、1994年10月1日発行、P270 - 271 (中央公論社)
- 桐山襲『未葬の時』菊地信義の装幀・レイアウトにも瞠目した短篇  
安原顯、『現在形の読書』DHC刊、1996年2月14日発行、P67 - 68 \*初出未確認
- 今月の書き出し 心が熱くなる  
宮沢章夫、「一冊の本」1996年5月号、第1巻第2号、1996年5月1日発行、P59 (朝日新聞社)
- 遺作「未葬の時」 \*初出未確認  
道浦母都子、『同時代ライブラリー 本のオアシス』岩波書店刊、1996年9月13日発行、P40 - 41
- 桐山襲と瀬戸内晴美 —— 『バルチザン伝説』と革命女人像 日本文学の百年 134  
小田切秀雄、「東京新聞」「中日新聞」1998年6月30日発行夕刊、中日第10面
- 桐山襲遺作の透徹した死 \*初出未確認  
清水良典、『最後の文芸時評 90年代日本文学総ざらい』四谷ラウンド刊、1999年7月7日発行、P29 - 32

○解説 桐山襲伝説

川村湊、『講談社文芸文庫 未葬の時』講談社刊、1999年11月10日発行、P272 - 286

→川村湊『川村湊自撰集3 現代文学編』作品社刊、2015年7月30日発行、P307 - 316

○桐山襲に江藤淳の自死を重ねてみる 問い続けた「全共闘」の記憶

70年代 週刊図書館

朝山実、「週刊朝日」2000年1月21日発行、第105巻第3号、通巻4363号、P113

○解説 文学は政治のすぐ隣にある

井口時男、講談社文芸文庫『戦後短篇小説再発見9 政治と革命』講談社刊、2002年2月10日発行、P270 - 283

○書誌『桐山襲と日本現代文学のために』の経験

二瓶浩明、『文献探索2001』金沢文圃閣刊、2002年7月14日発行、P359 - 362

○記憶の共同性と文学

鹿島徹、『岩波講座 文学9 フィクションか歴史か』岩波書店刊、2002年9月20日発行、P41 - 59

→鹿島徹『可能性としての歴史』岩波書店刊、2006年6月28日発行、P247 - 271

\*初出を多少増補

○今は「現在」ではない、「正午」だ。

瀬尾育生、「図書」2003年1月号、第645号、2003年1月1日発行、P28 - 32 (岩波書店)

○「連合赤軍」小説を読む 事件・報道・フィクション

天野恵一、『文学史を読みかえる6 大転換期——「60年代」の光芒』インパクト出版会刊、2003年1月10日発行、P216 - 240

○桐山襲と道浦母都子 ——「全共闘」の時代を読む——

槇山朋子、「同志社国文学」第61号、2004年11月12日発行、P269 - 279

(同志社大学国文学会)

○いつか、書き継がれるクロニクル ——桐山襲『風のクロニクル』と日本社会

小林孝吉、「アソシエ」第18号、2007年1月30日発行、P202 - 213 (アソシエ21)

○書評『未葬の時』他

中村隆之、「リプレーザ」第2号、2007年4月15日発行、P286 - 288 (リプレーザ社)

○桐山襲論 ——<南島イデオロギー>と八〇年代の日本文学

原仁司、『表象の現代 文学・思想・映像の20世紀』翰林書房刊、2008年10月30日発行、P65 - 96

○解説 戦争はつづき、抗いと闘いはつづく

高橋敏夫、『コレクション戦争と文学20 オキナワ 終わらぬ戦争』集英社刊、2012年5月10日発行、P688 - 704

○偏愛蔵書室58 『パルチザン伝説』「完全なる敗戦」を夢みて

- 諏訪哲史、「中日新聞」2012年8月21日発行、第13面  
→諏訪哲史『偏愛蔵書室』国書刊行会刊、2014年10月27日発行、P180 - 182
- 桐山襲 不敬と罵られた公務員作家 戦後日本の青春期 27  
川村湊、「毎日新聞」2012年9月19日発行、第19面
- 抒情がそれを語り出すとき 桐山襲の「戦後」  
小林増埜、「現代詩手帖」2015年8月号、第58巻第8号、2015年8月1日発行、  
P132 - 135
- 『テロルの伝説 桐山襲烈伝』  
陣野俊史、河出書房新社刊、2016年5月30日発行 A5版、総頁457頁、定価2900円（税別）  
内容：はじめに 第一章 デビューと喧噪 第二章 学生闘争・熊楠・オキ  
ナワ 第三章 昭和の終わりと「表現の自由」 第四章 未葬の時  
プレゼンテ（桐山襲） あとがき
- 大波小波 よみがえる桐山襲  
（修羅）、「東京新聞」「中日新聞」2016年6月20日発行夕刊、東京第7面・中日第9面
- ＜書評＞『テロルの伝説 桐山襲烈伝』  
団塊世代の反乱を再考  
横尾和博、「北海道新聞」2016年7月3日発行、第12面
- ＜書評＞『テロルの伝説 桐山襲烈伝』  
隔たり縮める強度  
古川日出男、「京都新聞」「熊本日日新聞」「琉球新報」2016年7月17日発行、京都第15面  
・熊本第6面・琉球第21面
- ＜書評＞『テロルの伝説 桐山襲烈伝』  
桐山自身とその時代、その文学を生き直すかのように再現した文学的評伝  
佐藤泉、「週刊読書人」第3147号、2016年7月8日発行、P5
- ＜書評＞『テロルの伝説 桐山襲烈伝』  
時代と闘う小説家の意思  
平井玄、「東京新聞」2016年7月17日発行、第9面
- ＜書評＞『テロルの伝説 桐山襲烈伝』  
小説技法にも鋭い視線向ける  
小野正嗣、「日本経済新聞」2016年7月17日発行、第20面
- 桐山襲から現代を読む  
対談 陣野俊史・中村隆之、「図書新聞」第3266号、2016年8月6日発行、P1 - 2
- 著者インタビュー『テロルの伝説 桐山襲烈伝』陣野俊史  
陣野俊史（構成・竹坂岸夫）、「サンデー毎日」2016年8月14・21日合併号、第95巻第35号、  
通巻5353号、P125

○＜書評＞『テロルの伝説 桐山襲烈伝』

現在に召喚されるべき「テロルの作家」の評伝

林浩平、「三田文学」2016年秋季号、第95巻第127号、2016年11月1日発行、

P354 - 356